

# 十勝に広がれワーケーション

【中札内】リゾート地などリモートワークをしながら余暇を楽しむ「ワーケーション」の可能性を探る村の実証事業に、東京都内の会社経営者が16、20日に参加した。参加者は村内の恵まれた自然環境や快適な仕事空間にほれ込み、村内に新たな拠点を設けることにも前向きな姿勢を示した。

村は、コロナ禍でワーケ



馬場社長が暖炉の前でくつろぐ

## 「新たなアイデア湧く」 都内社長、助成活用第1号

【中札内】リゾート地などリモートワークをしながら余暇を楽しむ「ワーケーション」の可能性を探る村の実証事業に、東京都内の会社経営者が16、20日に参加した。参加者は村内の恵まれた自然環境や快適な仕事空間にほれ込み、村内に新たな拠点を設けることにも前向きな姿勢を示した。

同事業を初めて利用したのは、資産コンサルティング会社「Innovative on IFA Consulting」の馬場勝寛社長(31)。村内の「グランピングリゾート フェーリエンドルフ」で仕事をしながら、中札内・十勝の観光や食を楽しんだ。

コロナ禍を受け、出社率1〜2割程度までテレワークが進んでいるという同社だが、ワーケーションは初めて。馬場社長はエゾリスが走り回るカシワ林に囲まれたコテージで、「東京にいるのと全く変わらず仕事ができ、むしろ東京では出てこないアイデアが生まれた」という。「本社のある渋谷は人が多く、時間の流れも速いため、見えないストレスがあったのだと思う」と話す。

空港に近いことも中札内のメリットという。「家賃の

高い東京にオフィスを構えるより、こちらにいて必要なときに東京を行き来する方が経済的かもしれない」とも。「ここにコテージを借りるなりして、サテライトオフィスにすることも考えている。新しいオフィス環境は会社にとっても目玉になる」と話す。

村の助成事業については、「金額の多少にかかわらず行政の支援があると、まちを挙げて歓迎してもらっているようでうれしく」と評価した。

一方、移動手段が限られることが課題という。馬場社長は今回レンタカーを利用したが、「大企業だと運転手を付けた車が必要になるのでは」と指摘する。

村はワーケーションで長期滞在してもらうことで、飲食や小売りなど村内消費拡大にもつなげたい考え。「理想は地域居住につながる。単発ではなく継続的に来ていただきたい」(産業課)としている。

(丹羽恭太)



新嵐山で開かれたワークショップ

## ▶中札内で実証 ◀芽室は体験会

【芽室】町内の恵まれた自然、農村環境を生かした初のワーケーション体験プログラム「野マド」が14、16日、町内各所で開かれた。大手IT企業の社員ら道内外から17人が参加。15日には参加者と町民が、町の魅力や課題について語り合う

「野」をワークスペースとして提案。そこを訪れる人材との交流を通じて町の活性化を目指している。

参加したのはヤフーやアップル、フェイスブックなどIT系企業社員や観光・交通、行政関係者など。14、15の両日は町内の「野マド・スポット」でリモートワークを体験。参加者の一人は「外で仕事をすることで伸び伸びでき、本当に幸せを感じている」と感動していた。

15日夕方から新嵐山スカイパークで開かれたワークショップ「野マド・サミット」には、町内の農業者ら6人も合流。芽室を働く場、住む場として捉えた場合の魅力や課題について意見を交わした。

参加者からは芽室の魅力として、東京からのアクセスの良さや景観、食などに加え、町民の寛容さやチャレンジ精神などをたたえる声があった。一方、「人を呼び込む取り組みが絞り切れていない」「宿泊施設が少ない」「発信力が弱い」といった課題も提起された。意見は手島旭町長に提言した。

手島町長は「すでに町内にサテライトオフィスなどを作ってほしいということではなく、『濃い関係人口』になってもらうことが狙い。参加した人と職員らのネットワークが、魅力的なまちづくりにつながる」と話す。

(丹羽恭太)

## 「屋外で伸び伸び幸せ」 ヤフー社員ら参加「野マド」

【芽室】町内の恵まれた自然、農村環境を生かした初のワーケーション体験プログラム「野マド」が14、16日、町内各所で開かれた。大手IT企業の社員ら道内外から17人が参加。15日には参加者と町民が、町の魅力や課題について語り合う

「野マド」は英語で遊牧民を意味し、近年はオフィスパークで開かれたワーク

TOKACHI  
19  
15) 2021年(令和3年)10月22日(金曜日)